

随 筆

イタリア訪問の印象

岡江 俊治

今年の9月にイタリア訪問の機会がありました。4年前と合わせて2回目となります。楽しい思い出となりましたので、簡単ではありますが、その印象を述べさせていただきます。

初回はツアーでの訪問でしたが、今回はオプションなしで旅行会社に飛行機、鉄道、ホテルを予約しただけで、ほとんど自由行動でした。ツアーでは、主要都市（ヴェネツィア、フィレンチェ、ローマ、ナポリ）の観光スポットを訪問しましたが、短期間だったためほとんど駆け足の観光でした。また、当地の保健施設見学を兼ねていました（それが主たる目的でした）ので、事前に予約したローマの老人介護施設とフィレンチェ大学医学部の附属病院の見学もありました。

訪問した都市の印象を記してみます。まずヴェネツィアです。この町は車で移動することはほとんど不可能のようです。運河が張り巡らされており、移動は水上タクシーや乗り合いバス等の小型船舶です。高層建築物はなく、昔からのオレンジ色の屋根瓦とレンガ造りの住居、店舗、ホテルが中心です。観光したのはドゥカーレ宮殿、サン・マルコ寺院および同名の広場であり、ゴンドラという手こぎの舟による運河の遊覧もありました。市街地では細い路地を徒歩で移動しただけでしたが、童話の世界を思わせる雰囲気でした。日本の観光地とは異質の旅情があり、昔のままを見てほしいというメッセージを感じます。次にヴェネツィアからユウロスターという特急列車でフィレンチェに向かいました。その車窓はいわゆるパノラマウィンドウで、観光客用の構造です。スーツケース用の棚があり、ヨーロッパの列車内では必需品となっています。この町には、巡回バスと、トラムという路面電車がありますが、初回訪問時は徒歩での移動でした。ウフィッツィ美術館、ドゥオーモという大聖堂の見学が中心でした。ウフィッツィ美術館へは、今年も訪問しました。前回とちがって事前予約をしなかったためもあり、当日券の購入は約3時間待ちでしたが、何とか入場できました。じっくりと観賞できるための配慮として入場者制限があったようです。イタリアを含め、外国の美術館や博物館は、事前予約が可能であれば、インターネットからの予約、あるいは専門の代理店に日本で依頼したほう

が長時間待たなくて済むようです。また、定休日となる曜日にも注意が必要です（フィレンチェの主な美術館は月曜休館です）。この美術館は並んで待っただけの価値がある素晴らしい作品が揃っています。しかも、日本の美術館と違って手持ちカメラによる撮影制限がありません。ボッティチェリの「春」、ヴィーナス誕生」ラファエロの「ひわの聖母」、ミケランジェロの「聖家族」といった有名な絵画が所蔵されています。フィレンチェの町には、ヴェネツィア以上にいろいろなショップが立ち並んでおり、ウインドウを眺めるだけでも楽しめます。次に訪問したのはローマです。町での移動はクルマであり、首都らしく渋滞もありました。バチカン宮殿、コロッセオ等の遺跡、トレビの泉等を訪問しました。その後ナポリ（バスの車窓からの市内観光、ポンペイ遺跡）も駆け足で訪問しました。

今回のイタリア訪問は、ミラノ近郊のロッヂという町で開催された学会で発表するのが目的でした。自分が所属している厚生連病院の関係者が参加する国際農村医学会という学会です。数年毎に世界中で開催され、前はインドのゴアでした。学会のスケジュールは緩やかでしたので、短時間ながらミラノやロッヂの市内を観光できました。ミラノ市内では、サンタマリアデッレグラツィエ教会にある「最後の晚餐」というレオナルドダビンチ作の壁画を鑑賞しました。当日券購入はまず困難であり、同僚の先生が日本で業者に頼んで事前に購入してもらえたので、少しの待ち時間で入場できました。ミラノの中心にはフィレンチェと同じ名前であるドゥオーモという大聖堂があります。その周辺にはデパートや有名なブランド店が連なるアーケード街があって、ウインドウショッピングが楽しめます。ミラノには地下鉄、トラムそして巡回バスが張り巡らされており、東京並みに便利でした。24時間や48時間乗り放題のお得な切符もあり、時間があればあちこち見て回れそうでした。また、今回の訪問はツアーではありませんでしたので、自分で鉄道や地下鉄の切符を購入したのですが、実は慣れれば非常に簡単であることがわかりました。自動券売機はイタリア語以外にEUの主な国の言語で購入できますし、私が選択した英語での購入もそれほど難しくありません。はじめに訪問したフィレンツェからミラノへの移動は鉄道であり、最高速度300km/時と高速ながら乗り心地がよく、車内での飲み物（コーヒー、ソフトドリンク）やお菓子、新聞等はすべて無料でした。地下鉄は東京や名古屋とほとんど変わりなく、案内表示もわかりやすく親切でした。総じてイタリアの交通手段は観光客にとって便利で快適でした。

イタリアの2度の訪問は、私の勤務先からは、いずれも出張扱いとしていただいたので、旅費や学会費はほとんど支給してもらえました。現在の所属施設

は今年の11月で丸27年の勤務となります。長期の勤務者に保健施設の見学を兼ねた海外旅行ツアー参加の特典があります。また、海外での学会出張も演題の発表であれば、上限はあるものの旅費のほぼ全額が支給されます。この制度を利用できたのは、同僚の先生、病院の職員、および大学医局のバックアップのおかげでもあります。心より感謝しております。私の所属施設の特典はその他にもいろいろありますので、関心がおありでしたらお尋ねください。

以上ざっとイタリア訪問の印象を記しました。さて、恥ずかしながら自分自身のことを申しますと、実は以前からフランスの文化に興味があります。音楽でいえば中学時代からNHKラジオの「午後のシャンソン」という番組が好きで、毎週日曜日にはかかさず聴いていたぐらいでした。また、絵画や映画も好きで、さらにはフランス語をかじったこともありました。しかし、今回の訪問でイタリアへは何度も行きたい気持ちになっております。美術品、建造物も素晴らしいのですが、イタリア人は道を尋ねてもほとんど丁寧かつ笑顔で答えてくれます。その人間性が最大の魅力かもしれません。その他にもお伝えしたい魅力がたくさんありますが、このへんで筆を擱かせていただきます。最後までお読みいただきありがとうございました。

(愛知県厚生連 安城更生病院 放射線科部長)